

乳がんの手術について



広島大学病院 乳腺外科 角舎学行

この冊子では、乳がん手術、再建手術についてわかりやすく解説しています。まずはこの冊子をじっくり読んでいただき、基本的な乳がんの手術と乳房再建について知ってください

乳がん手術に対する基本的な考え方とは？

乳がん手術の基本は、まずがんをきちんと取り除くことです。また最近は整容性も重要視されています。それをふまえて、自分の乳がんの状態や乳房の大きさ、年齢、費用などを考慮して、治療方法、手術の方法、乳房再建などを決めてください。

周りにはあなたの意思決定の手助けをしてくれる味方がいます

乳がんと診断されてから治療開始までの短い間にたくさんの方のことを考えて治療法を決めていくことは難しいことです。しかし、病院にはあなたの意思決定を手助けしてくれる味方が必ずいます。

まず一人目は主治医です。主治医はあなたの乳がんの状態をよく知っていて適切なアドバイスをくれます。二人目は看護師です。医学的なことも含め、生活上の疑問に答えてくれたり、励ましをくれます。三人目は患者支援センター（がん相談）のスタッフです。治療にかかる費用や社会的補助など、経済的な相談にのってくれます。四人目は同じ病気と闘う仲間です。病院にはがんサロンがありますし、院外にも乳がん患者サロン、患者会などがあります。

乳がんに対して一人で戦うのはつらく孤独なものです。一人でも自分の味方を増やして、乳がん治療に立ち向かってください。

乳房温存手術について



広島大学病院 乳腺外科 舛本法生

一昔前の乳がん手術は再発を減らすため、なるべく大きく切除した方がよいとされていましたが、切除する範囲で治療成績が変わらないことが明らかになり、手術は縮小化に進んできました。

乳房温存療法の目的は何ですか？

乳房内の再発率を高めることなく、手術前とできるだけ近い形で乳房を残すことが目的です。通常、温存術の後に目に見えないがん細胞を根絶するために放射線治療を5～6週間行います。放射線治療を加えることで、加えない場合の約1/3に乳房内の再発を減らすことができます。



乳房温存療法に適したしこりの大きさは何センチまでですか？

しこりの大きさについては明確な基準はありませんが、乳房内の再発を高めることなく美容的に満足できる形を残せるためには3cm以下を適応とすることが多いです。しかし、しこりの位置や乳房の大きさにより、4cmくらいのしこりでも可能な場合もありますので、担当医とよく相談した上で決めてください。

手術後にがんがとりにきていない可能性がある場合は？

手術後に切除した乳腺を顕微鏡で調べ、がん細胞が乳腺の端に確認された場合や、近くまでみられる場合はがんが乳房の中に残っている可能性があります。その場合再手術となることがあります。また放射線をしこりのあったところに追加で照射（ブースト照射）することも有効です。

乳房温存術後に乳房から再発することはありますか、その場合の治療は？

残した乳房から再び乳がんが発生することが数パーセントあります。これは乳房内再発といって、通常よくいわれている“遠隔転移（再発）”とは異なります。しこりが小さく、患者さんの強い希望の方には再び温存手術を行うこともあります。しかし再々発を起こすこともあり、残っている乳房全体を切除するのが標準です。